令和５年度　しおさいの里等複合施設　事業計画

１．中期的な事業方針（計画期間：令和３年度～5 年度）

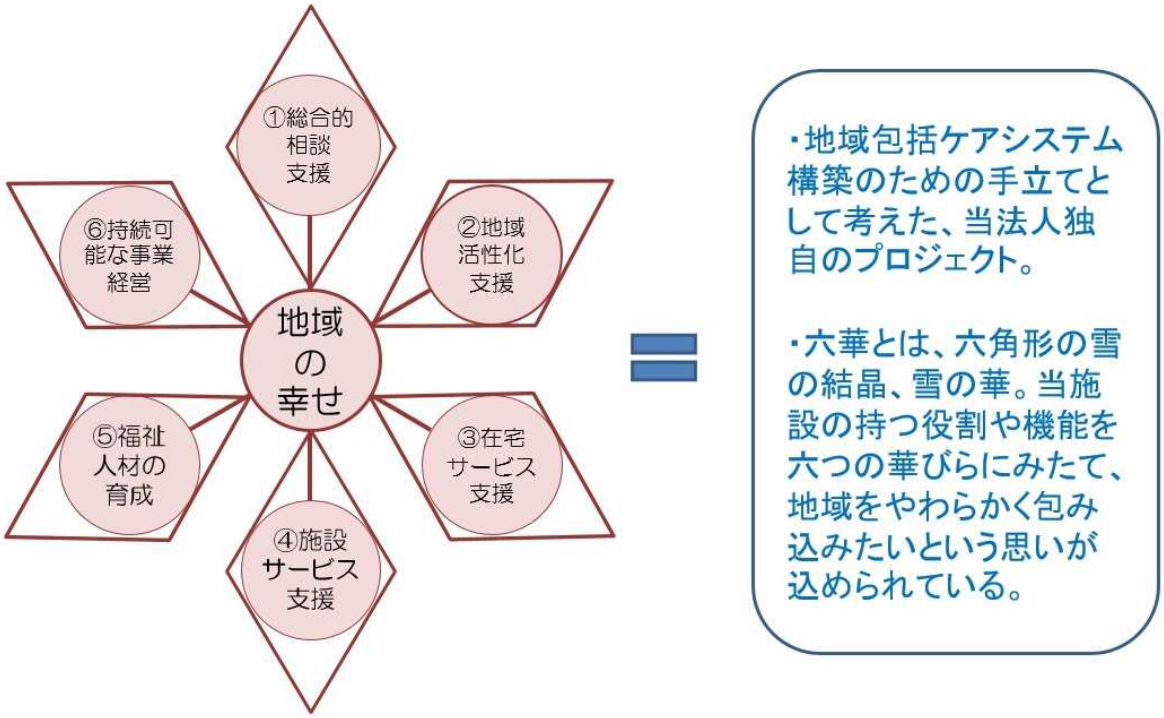
現在、少子高齢化が進行するわが国において、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代のすべてが 75 歳以上となる 2025 年に向けて、「地域包括ケアシステムの深化・推進」、「自立支援・重症化防止の取り組みの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」等を図っていくことが方針として示された。

また、上越市においても国の方針に基づき、各福祉施策の基本理念として「誰もが居場所と出番を持って、共に支え合いながら、安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現」を図ることが示されている。

当複合施設としても、上述した社会福祉の動向を踏まえつつ、地域包括ケアシステムを構成する一員として、高齢事業部門と障害事業部門の連携をより一層強化していく中で、限られた経営資源を有効に地域に還元していきたいと考える。

また、平成 27 年度より当施設の各事業部門が連携し、一体となって進めてきた「しおさいの里・六華（りっか）プロジェクト」を深化させて、社会福祉法人としての活動を推進していきたいと考える。

＜しおさいの里・六華（りっか）プロジェクト＞



六華プロジェクト　計画期間の推移	
第１期	平成 27 年度～平成 29 年度
第２期	平成 30 年度～令和２年度
第３期	令和３年度～令和５年度

＜総合的相談支援（一ノ華びら）＞
・住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるための相談体制の充実を図ります。
（◆地域包括支援センター　◆居宅介護支援事業所　◆各サービス相談援助部門）

＜地域活性化支援（二ノ華びら）＞
・住民組織、ボランティア等の多様な主体と協働しながら、高齢者の生きがい、健康づくりや障がいがある方々の社会参加を応援します。
（◆介護予防事業「だんだん広場」　◆ボランティアの受入れ　◆障害者スポーツ等の体験交流（ふくしのひろば等）　◆認知症啓発活動　◆地域交流行事（夏祭り等）　◆社会奉仕活動　◆地元保育園や小中学校等との交流事業　◆ホームページや広報紙等を媒体とした情報発信）

＜在宅サービス支援（三ノ華びら）＞
・介護及び障害福祉サービス事業所としての資源やノウハウを最大限活用し、在宅で暮らすご利用者とご家族を支えます。
（◆デイサービスセンター　◆ショートステイ　◆基準該当生活介護）

＜施設サービス支援（四ノ華びら）＞
・在宅での生活が困難な方々、特に中重度の要介護者や障がいがある方々への生活支援に努めます。
（◆特別養護老人ホーム　◆障害者支援施設）

＜福祉人材の育成（五ノ華びら）＞
・人材不足が顕著に現れている福祉分野において、組織の活性化を図りながら、互いが協力し合うとともに、やりがいのある職場づくりに努めます。
（◆職員研修　◆人事交流　◆業務効率化　◆職場環境の改善　◆処遇改善　◆メンタルヘルス）

＜持続可能な事業経営（六ノ華びら）＞
・感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築するとともに、持続可能な事業経営に向けた取り組みを推進します。
（◆感染症や災害への対応力強化　◆収入増加策の検討　◆業務改善による経費削減　◆設備・備品の大規模修繕、更新の計画、実施　◆夕映えの郷事業部との業務連携）

２．事業内容
（１）特別養護老人ホームしおさいの里（介護老人福祉施設）
（２）しおさいの里ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護）
（３）障害者支援施設さいはま園（生活介護、施設入所支援、短期入所）
（４）デイサービスセンターゆりかご荘（通所介護、新総合事業通所型サービス、基準該当生活介護）
（５）しおさいの里居宅介護支援事業所（居宅介護支援）
（６）しおさいの里地域包括支援センター（拠点・大潟くらし支援室、サテライト・頸城くらし支援室）（上越市委託事業、介護予防支援事業）
（７）介護予防教室「だんだん広場」（上越市地域支え合い事業（まちづくり大潟委託事業）、法人独自事業）

３．令和５年度事業計画

３－０）法人における共同検討計画

【共同検討課題】

1. 介護保険制度と障害福祉制度の円滑な共同、および新たなサービス等の創造

・検討プロジェクトチームによる法制度上の「共生社会の実現」についての共同検討

2. 相談事業の改変を検討

・介護保険における地域包括支援センター・居宅介護支援事業と障害福祉制度における相談支援事業の共同、および新たな地域における相談体制の創造

３－１）しおさいの里等複合施設事業計画

（１）事業目標：新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、地域共生社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

（２）重点目標：

【重点事項１】感染症や災害への対応力の強化

①感染症の発生及びまん延防止の観点から、現行の委員会の開催、指針の整備、研修の実施に加え、訓練（シミュレーション）を計画、実施します。

②感染症や災害が発生した場合であっても業務が継続できるよう、国のガイドライン等を参考にしながら計画の策定、研修の実施、訓練の実施について準備を進めていきます。

【重点事項２】地域包括ケアシステムの推進

③「共生社会の実現」の観点から、年齢や障がい等に関わらず、住み慣れた地域で暮らし続けられるための相談体制やサービス提供体制の充実に向け、引き続き法人内（しおさいの里事業部・夕映えの郷事業部間）でコミュニケーションを図っていきます。

④認知症対応力を向上させていくため、認知症介護研修（基礎研修、実践者研修、実践リーダー研修、指導者研修)」等の研修会に計画的に参加します。なお、介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者については認知症介護基礎研修への参加を必須とします。

⑤地域ニーズの高い「介護予防教室」について、外部講師やボランティアからの協力を得ながら継続して実施します。また、地域に暮らす高齢者や夕映えの郷メンバー等に対し、社会における活躍の場を提供することで、「生きがい」の創出や施設利用者の生活の質の向上につなげていきます。

【重点事項３】自立支援・重症化防止の取組の推進

⑥厚生労働省が推進する「LIFE（科学的介護情報システム)」の導入、活用について検討していきます。

【重点事項４】福祉人材の確保・育成、介護現場の革新

⑦ICT（情報通信技術）や介護ロボット等の活用、労務管理の強化等により、業務の効率化や負担軽減、一人ひとりが働きやすい職場環境の向上に努めていきます。

⑧事業部門間での人事交流や業務の標準化（見える化）を推進し、互いの業務を補い合える職場環境を目指していきます

【重点事項５】持続可能な事業経営

⑨介護報酬改定における増収策について研究するとともに、更なる経費削減策と計画的な施設設備の更新について検討し、実践していきます。

（３）重点数値目標

特別養護老人ホーム	入所	利用率　96%／年
	短期入所	利用率　80%／年
デイサービスセンター	1 日型サービス	延べ利用者数：25 人以上／日（650 人以上／月）
	半日型サービス	登録者数：　30 人／月
障害者支援施設	生活介護	利用率：　95%／年
	施設入所支援	利用率：　95%／年
	短期入所	利用率：　50%／年
居宅介護支援事業所		担当件数：　140 件以上／月
地域包括支援センター		実態把握：　540 件／年、

３－２）在宅支援課　部門計画

（１）部門目標：本体施設および法人または地域のそれぞれの事業所と連携して、地域の方々が必要としていること、困っている方々の支援に誠意ときめ細かな配慮のもとで寄り添い、その人らしい自立した生活が送れるよう良質なサービスの提供に努めます。

（２）重点目標：

①組織の一員として、一人ひとりが自分の立ち位置や役割を自覚し、それぞれの業務に責任を持って取り組みます。

②ご利用者との関わりを大切にし、想いや望みをくみ取り、その実現に向けてご利用者やご家族の持っている力を引き出し、また地域の関係者の力を借りながら支援していきます。

③地域との連携の中でお互いが協力し合えることを一緒に考え、連携・協働に努めていきます。

３－２－１）地域包括支援センター　部門計画

（１）部門目標：担当エリアの地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組み、「地域共生社会の実現」に向けて地域や多分野の関係機関と連携を図っていきます。

（２）重点目標：**(数値目標：実態把握 540 件/年（内訳：大潟区　月 25 件×12 か月　　頸城区　月 20 件×12 か月)**

①高齢者から障がい者（ひきこもりの人を含む)、生活困窮者の支援にあたり、多種・多様なニーズで複雑化するケースに対応していくため、拠点とサテライトの機能（業務）を分化し明確にして、拠点を中心に組織的・一体的に事業を進める体制を整えます。

②限られた職員数で、多くの業務を遂行していくため、配置職種の専門性が効果的に機能する業務体制を整えます。特に３職種配置職員とサテライト配置職員は包括的支援事業である高齢者の総合相談支援業務と介護予防ケアマネジメント業務に専念できる体制を整えます。

③課題を抱えている人を早期に発見し支援につなげることができるようアウトリーチを基本とし、地域の関係機関との連携を進めていきます。

３－２－２）居宅介護支援事業所　部門計画

（１）部門目標：法人内や他事業所との連携を図り、制度や地域資源のつなぎ役を果たすことでその人らしい自立した生活が送れるよう質の高い支援を目指します。また、個別支援を通じて多様なニーズに対して関係機関と協働して取り組んでいきます。

（２）重点目標：**(数値目標：担当件数 140 件／月以上)**

①職員の資質や専門性の向上に努め、事業所内での報告・連絡・相談の仕組みを機能させることで、組織的な対応の明確化を図り、事業所力の向上を目指します。

②ご利用者との関わりを大切にし、障害・疾病等にかかわらず、住み慣れた地域での生活を継続することが出来るよう、ご利用者及び、ご家族の意思を尊重するとともに、真のニーズを汲み取ることが出来るよう丁寧なケアマネジメントを心掛け支援していきます。
③感染症や災害に備え、平常時から業務継続計画に沿った対応に努め、緊急時にも早急に対応できるよう職員間で協議、訓練をしながら実践につなげていきます。

３－２－３）デイサービスセンター　部門計画

（１）部門目標：地域や関係機関、職員間の連携を図り、年齢や障害を問わず利用者のニーズに合わせ柔軟に対応できる支援を目指します。
（２）重点目標：**(数値目標：1 日型利用率 25 名以上／日　　半日型 登録数 30 人以上)**
①ご利用者のニーズを把握し、サービス利用開始のきっかけ作りや、利用の継続に繋がるよう努めます。また、障害のある方について、知識を深めながら関係機関と連携を取り継続的に支援できるよう調整します。
②厚生労働省が推進する「科学的介護情報システム（LIFE)」を導入し、フィードバックを活かした取り組みに努めます。
③感染症や災害時に備え、感染対策や災害訓練に取り組み、ご利用者が安心して利用できるよう努めます。
④職員間のコミュニケーションを大切にし、働きやすい職場環境作りを目指し、職員の連携が密になるよう努めます。
＜行事年間計画＞

4 月		10 月	紅葉見学
5 月	花見外出	11 月	
6 月		12 月	クリスマス忘年会
7 月		1 月	新年会
8 月	蓮見学	2 月	節分会
9 月	敬老会	3 月	

３－３）高齢介護課　特別養護老人ホーム　部門計画

（１）部門目標：利用者、職員共に笑顔で、安心して楽しみややりがいのある生活が送れるよう、心や思いに寄り添い、適切なサービス提供の実現を目指します。また地域の中の一員としての役割にも目を向け、安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現が図れるような取り組みも構築し、高齢事業部門と障がい事業部門においても連携を強化し、利用者・職員が一体となり充実したサービスの展開、質の高いサービスの展開を目指します。
（２）重点目標：**(数値目標：利用率　96.0／年)**
①コロナウイルス感染症やその他の感染症の発生及び蔓延防止を意識し、日々の生活において楽しみややりがいを持てる生活を送ることが出来るよう努めます。
②利用者の基本的人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく笑顔で生活できることを大切にしながら支援します。
③認知症ケアについて、一人ひとりが自分らしく安心した生活が送れるような支援を目指します。認知症介護研修等も計画的に参加できる様努め、医療・福祉関係の資格を有さない者については認知症介護基礎研修への参加を必須とします。
④LIFE（科学的介護情報システム）のフィードバックに基づいたケアの取組を継続し、重度化防止を目指します。
⑤専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーショ

ンを大切にし、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指し、一人ひとりが自身の資質向上のため、積極的な研修参加や自己研鑽に努め、質の高いサービスを目指します。

⑥移乗支援用具や介護ロボット等を活用しながら、介助の基本に立ち返り、腰痛予防や業務の効率化・負担軽減に繋がるよう努めます。

⑦感染症の状況を確認しながら、可能な時期に地域に暮らす高齢者や障害者、地域住民の活動の場としてボランティア活動やその他の社会活動の受け入れを再開し、利用者の活動の輪の更なる広がり、可能性の引出しや楽しみ、やりがいを持つことで、社会との結びつきの充実を目指します。

３－３－１）しおさいの里　２丁目　部門計画

（１）部門目標：利用者が心身ともに健康かつ安心安全で充実した生活を送ることができるよう、職員が情報共有を取りながら利用者のためのより良い支援をしていきます。また職員にとっても働きやすい環境づくりに努めます。

（２）重点目標：

①日々の生活支援の中で、感染症の発生及び蔓延防止に努めながら、行事の企画や季節を感じていただけるような飾り付けを行い、利用者に楽しんでもらえる環境を提供していきます。また、利用者個々のニーズに迅速に対応できるよう相手の立場になって、応えていきます。

②言葉の表現やトーン、対応の仕方等、不適切なケアに繋がらないよう、職員同士言い合える関係を築くよう努めます。その為に職員間のコミュニケーションを大切にし、定期的に職員自身の介護・援助の仕方を振り返る機会を設けていきます。

３－３－２）しおさいの里　３丁目　部門計画

（１）部門目標：利用者が安心し、健康な生活、安心・安全な生活を送れるよう援助し、職員にとっても働きやすく、職員一人ひとりが個性を発揮できる環境作りに努めます。

（２）重点目標：

①利用者が健康で充実した生活が送れるよう、日頃の様子を観察し変わった様子を見逃さず看護師や多職種へ報告し、感染症の予防、また事故防止に努め、安心、安全、快適なサービスを提供します。利用者の楽しみややりがいを探りながらその人らしく笑顔で生活できるよう支援していきます。

②職員一人ひとりが考え、意見を言い合える関係性を築けるようコミュニケーションを大切にした環境、また相談しやすく働きやすい環境作りを目指し、職員の連携が密になるよう努めます。

３－３－３）しおさいの里　６・７丁目　部門計画

（１）部門目標：利用者一人ひとりが安心・安全に楽しみややりがいのある生活が送れるよう支援し、職員にとっても働きやすい職場となるよう、互いに認め合える職場環境を目指していきます。

（２）重点目標：

①日々の支援の中で、利用者一人ひとりの楽しみややりがいを探りながら、職員間で情報を共有してサービスを提供し楽しんで頂けるよう、また、新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の発生及び蔓延防止・事故防止に努め、安心・安全に生活を送ることが出来るよう努めます。

②職員間のコミュニケーションを大切に、お互いを尊重し協力し合い、業務体制を工夫しながら働きやすい環境作りに努めます。

３－３－４）しおさいの里　５丁目　部門計画

（１）部門目標：　繰り返しご利用いただけるように、心のこもったサービス提供に努めます。

（２）重点目標：**（数値目標：利用率８０％／年）**

①利用者やご家族のご意向・ご意見等に真摯に向き合います。
尊厳を守り、気持ちに寄り添った対応を行うことを念頭に、安心してご利用いただけるように努めます。

②職員全員が目標に向かって自主的に行動を起こし、お互いに尊重・協力し合い、有効なコミュニケーションが取れる職場環境を目指します。

③感染症対策に留意した上で可能な限り、ロングショートステイの受入れや７丁目の多目的室や特養の空きベッドを活用し、利用率アップに繋げ、毎月の利用延べ人数３００人を目指します。

３－３－５）看護　部門計画

（１）部門目標：利用者、家族、職員が共に安心して過ごせるように健康ケアに取り組みます。

（２）重点目標：

①多職種と連携して夜間の急変時対応、看取りケアを、安心して行えるように進めていきます。

②限られたスタッフ数で、利用者様への健康管理が行えるように、専門職の立場から取り組みます。

３－３－６）機能訓練　部門計画

（１）部門目標：科学的裏付けに基づき、他職種と協同して利用者個別の状況に応じた援助に取り組んでいきます。

（２）重点目標：

①専門職としての視点から、利用者個々の能力や可能性をアセスメントし他職種と共有する事で、安全な生活環境や充実した生活を送れるよう支援に努めます。

②職員と利用者それぞれの負担軽減のため、持ち上げない介助の推進を図り、移乗支援用具及び移乗方法の啓蒙・普及・定着を継続していきます。

③引き続き、厚生労働省が推進する「LIFE（科学的介護情報システム）」の取り組みとフィードバックを活用することで、ケアの質と利用者の ADL の向上を図っていきます。

３－３－７）相談支援　部門計画

（１）部門目標：ご利用者、ご家族、施設職員が繋がりを大切にし、利用者一人ひとりが最期の時まで自分らしく、楽しみのある生活が送れるような支援を目指します。

（２）重点目標：

①利用者のアセスメントを充実させ、ご家族や施設職員と情報を共有します。また、ご家族との関りを大切にし面会やあっとホームの充実に努めます。

②利用者が楽しみややりがいが持てるクラブ活動や外出を通し、地域社会との繋がりを目指します。

③LIFE の活用により科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を継続し、重度化防止を推進します。

④仕事の効率化や職種間の連携を図り、他職種と共同体制のもと利用者の生活の質の向上を目指します。

３－４）障害支援課　さいはま園　部門計画

（１）部門目標：多種多様な障害に対する知識と支援技術を持ち、障害特性を理解した専門的な支援を行います。

（２）重点目標：

①一人ひとりの思いを大切にし、自立支援と自己実現を支え、QOL の向上を目指します。

②一人ひとりをかけがえのない個人として大切にし、人権尊重と尊厳の確保を目指します。

③長引く感染症や、突発的な災害時でも業務が継続するよう体制を整えます。

④障害者の高齢化、重度化、障害や疾病の重複化などの課題を見直し、障害特性に合わせた支援体制の構築に取り組みます。

⑤職員同士が相談しやすい環境で「協議（目的を合わせる）・協力（力を合わせる）・協調（心を合わせる）」のチーム力で働きやすい職場を目指します。

３－４－１）障害者支援施設（生活介護・施設入所支援）　部門計画

（１）部門目標：「かけがえのないひとり」を重視した施設を目指します。

（２）重点目標：**（数値目標：生活介護利用率 95%/年　施設入所支援利用率 95%/年）**

①一人ひとりの想いや人となりを理解し、個別支援計画に基づいた支援に努めます。

②一人ひとりの障害特性を理解し、適切な支援で身体拘束廃止・虐待防止に努めます。

③業務持続化計画に基づきシミュレーションを行い、感染症や災害に備えます。

④利用者や家族に求められている支援体制（重度化・高齢化・医療的ケア）を構築します。

⑤職員の欠員状態を解消するよう努め、業務負担軽減や時間外勤務等の体制を見直します。

３－４－２）短期入所（ショートステイ）　部門計画

（１）部門目標：コミュニティ拠点としての施設を目指します。

（２）重点目標：**（数値目標：利用率 50%）**

①職員体制を整え、一日も早い事業再開を目指します。

②緊急時や災害時の福祉避難所として機能し、円滑な受け入れ対応を目指します。

③利用者の多様性（障害種別の多様化・家庭環境の変化・個別の多様な希望など）を受け止め、支援方法を一緒に考えていきます。

３－５）管理課　部門計画

（１）部門目標：安心・安全で満足度を高めるサービスを目指します。持続可能な経営を目指し、業務改善と業務管理を行います。

（２）重点目標：

①施設利用者に安心・安全なサービスの提供を行うよう努めます。

②利用者の声に耳を傾け、食事に対する満足度を高めていきます。（利用者に寄り添う、食事提供に努めます。）

③持続可能な経営に向けた業務改善と保守管理を行う。

④職員一人ひとりが生き生きと働けるよう、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりと環境整備を推進します。

３－５－１）管理課　厨房　部門計画

（１）部門目標：春夏秋冬の時季の食材を使用し、利用者様に「季節」と「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。

（２）重点目標：

①他職種との連絡調整を密にして、お一人お一人の状態に合った食事を提供し、食事を通して利用者様の健康増進を図ります。
②利用者様の楽しみの一つでもある食事時間を快適に過ごしていただくために、様々な面で見直しを継続的に行います。
③食品ロスを最小限に抑えるように工夫します。また食器や調理器具などの衛生管理を徹底します。

３－５－２）管理課　事務　部門計画
（１）部門目標：持続可能な事業経営とサービス向上ができるよう、業務改善と各職種間との連携協力を行います。
（２）重点目標：
①経費の削減、効率的な仕事を行えるよう業務の見直しや改善、各職種間と連携協力します。
②業務のマニュアルを整備します。
③職員と利用者にとって安心・安全な環境づくりに努めます。

３－５－３）管理課　保安、宿直、清掃　部門計画
（１）部門目標：利用者と職員が安心・安全に過ごせるよう各職種間と連携を取り効率・効果的な業務に努めます。
（２）重点目標：
①保守・修繕・清掃において職種間と連携し、効率効果的な業務に努めます。
②持続可能な経営に向けた、保守管理と修繕を行います。
③安全と清潔を心がけ、利用者と職員が安心して過ごせる環境づくりに努めます。